

# 平成28年度法人事業報告

社会福祉法人 札幌この実会

平成28年度は、南ブロックが独立して社会福祉法人藻岩この実会が誕生し、札幌この実会は西ブロックのみとなり、その西ブロックでは創業時の建物、旧手稲この実寮1寮を全部取り壊す決断をしました。この実支援センター建替・改修計画として検討を進め、29年度に工事を行うことになりました。また、社会福祉法人制度改革による経営組織の見直し等への対応を進めました。28年度は、制度的にも、法人としても大きな節目になる年度となりました。

## 1. 南ブロックの法人分割・独立について

組織の肥大化による弊害を避け、一人ひとりの顔が見える規模で、地域に根差してそれぞれの課題に取り組むため、平成21年の社会福祉法人あむ、23年の社会福祉法人NIKORIに続き、28年に社会福祉法人藻岩この実会が独立しました。

7月に社会福祉法人設立認可申請を行い、8月2日に認可、5日に法人登記が完了しました。札幌この実会の理念を基礎としながら、拠点となる南区藻岩地区に根差した社会福祉法人藻岩この実会が誕生し、財産の贈与及び事業譲渡により、南ブロックの事業は9月末をもって廃止となり、10月から新設法人に引き継がれました。

## 2. この実支援センター建替・改修計画について

5月の理事会・評議員会において、この実わーくネットとして使用している昭和47年築の旧手稲この実寮1寮の一部取壊しを伴う改修工事の提案がありましたが、老朽化した建物に高額な修繕費をかけることに異論が出て再検討することになりました。

役職員の話し合い並びに札幌市への相談の後、検討小委員会を設け、3回にわたる小委員会での議論を経て、9月の理事会・評議員会において旧1寮を全部取り壊す建替・改修計画に見直すことになりました。計画は、かつて手稲この実寮があった場所は寮生の皆さんにとって「疲れた時に人間性を取り戻す場」としてこれからも必要になるとの考えにもとづき、今後の全体計画も見据え、グループホームを旧1寮跡地に新築して「ケアホーム969」を移転し、移転後の旧2寮を日中活動の場、生活介護に転用するものです。

また、計画は敷地・用途の関係から、市街化調整区域で許可を要しない建築物の改築とはならず開発審査会案件となりましたが、新築と用途変更に整理して申請を行

い、建築許可を得ました。

設計監理は実績のある(有)あぐあ建築設計と契約を締結し、工事の扱いは複数の工事を円滑に進めるため、必要となる先行工事を除き、建替・改修工事として一つにまとめ、起工決定しました。

### 3. 事業所指定について

平成28年度の主な事業者指定の変更は次の通りです。藻岩この実会の独立により、南ブロックの事業は9月をもって廃止となりました。

(4月)

この実わーくネット、管理者及びサービス管理責任者を変更

この実らいふネット、管理者を変更

この実らいふネット、13住居を12住居に、定員68名を67名に変更

第2この実寮、増改修に伴う変更、短期入所を併設型から空床利用型へ変更

(9月)

北の沢デイセンター、第2この実寮、もいわサポートセンター、児童デイサービスPorte、こんて、お達者倶楽部、及びほっと相談センターを廃止

### 4. グループホームのスプリンクラー整備について

下記のとおり、平成28年度に、3カ所のグループホームにスプリンクラー設備を整備しました。27年度の補助金で「ケアホームむつみ」及び「すこやか倶楽部」に、28年度補助金で「すいんぐ」に整備しました。なお、ケアホームむつみ及びすこやか倶楽部は南ブロックの独立により、9月末に藻岩この実会へ贈与しました。

#### 記

補助金：平成27年度札幌市民間社会福祉施設等整備費補助金

事業名：共同生活援助「ケアホームむつみ」大規模修繕等(スプリンクラー整備)事業

補助対象経費 5,886,000 円 補助金 3,280,000 円 自己資金 2,606,000 円

事業名：共同生活援助「すこやか倶楽部」大規模修繕等(スプリンクラー整備)事業

補助対象経費 5,907,600 円 補助金 2,900,000 円 自己資金 3,007,600 円

補助金：平成28年度札幌市民間社会福祉施設等整備費補助金

事業名：共同生活援助「すいんぐ」大規模修繕等(スプリンクラー整備)事業

補助対象経費 6,307,200 円 補助金 2,889,000 円 自己資金 3,418,200 円

# 平成 28 年度事業報告の骨子

## この実サポーステーション

### 1. 生活介護事業所「すてっぷ」

#### ○はた・ら〜く

- ・主に北海道ピーエスの下請け作業として、箱折りを行なった。概ね年間を通して作業を行なう事が出来た。
- ・作品作りでは、羊毛でヘアゴムやヘアピンストラップ等の商品を作り、円山動物園・元気ショップ・元気ショップいこ〜るで販売している。
- ・生産活動以外の活動の充実を図るため、レクリエーションや公園の散策などの活動を多く取り入れた。

#### ○盤溪

- ・屋外で身体を動かす活動に向いている寮生の活動の場として、中央区盤溪にある作業場で腐葉土作りや馬の世話、除雪などの環境整備を中心に活動を行なった。
- ・腐葉土については、春と秋に西野、福井地域に新聞広告を入れ販売している。地域への販売を始めて約 10 年になり、地域にも浸透してきており、販売数も毎年微増してきている。
- ・鳥インフルエンザが道内でも発生したため、養鶏は 1 2 月で終了している。

#### ○その他の活動

- ・日中活動の一環として、「乗馬」を人数、回数共に拡充した。
- ・余暇活動として、寮生に希望をとり「カラオケ」や「ボウリング」、「プール」等の活動を提供した。

### 2. 単独型短期入所事業所「りらっく」

- ・作業体験は、夏期、冬季とも参加者が減少している。
- ・来年度は、学校などにも案内を出して、利用者の増加につなげたい。

この実支援センター  
事業報告書 骨子

○この実支援センター

- ・平成 29 年 1 月に地域貢献活動として福祉総合相談「みすく・うえる」を立ち上げた。それまでにネットワーク作り（相談室や他の事業所との連携、大学や精神科クリニック等の連携）を行い、平成 29 年 2 月に西野連合町内会主催による福まちの研修会に参加し、説明を行い地域に周知を図った。
- ・この実会として 9 月に課長会を立ち上げ支援センター、サポートとの連携をとり、今後の検討、要覧作り、新人職員研修、外部講師による研修等行うことができた。

○この実わーくネット

- ・今年度は平成 30 年度多機能（生活介護・就労継続支援 B 型）を見据え、検討・準備を始めて行った。その中で現在のケアホーム 969 を改修し、生活介護事業所として進めていくこととなった。
- ・平成 28 年 1 月より、以前よりこの実会が大変お世話になり、障がいの方にとっても理解のある、日本仮設株式会社での工場内の作業を打診し、準備を重ね 8 月より 3 名の方が施設外就労を開始した。評価も高く、生産業務の一端を担う事が出来ており、新しい事にも挑戦させてもらっている。
- ・8 月より月に 1 度、高齢者の活動「いきいき日」に保護者がボランティアとして参加してもらい、みんなの家にてビーズ作りやお菓子作りを行っていている。毎回同じメンバーになってしまうので、「くらぶ活動」メンバーにも参加してもらい、活動に幅を持たせた。保護者の方たちも楽しみにしてくれている。

○この実らいふネット

- ・ケアホーム 969 の老朽化と日中の活動場所とグループホームとしての使用している使いづらさもあり、支援センター（旧 1 寮）の解体とその跡地にケアホーム 969 新築する準備を始めた。（平成 29 年度 11 月完成予定）
- ・平成 28 年 12 月「すいんぐ」にスプリンクラーを設置した。